

タウンミーティング記録 未来へ向けて 今、ここから

日 時 令和6年6月16日(日) 午後2時～3時30分
場 所 上野台二・三丁目自治会集会所（上野台二・三丁目自治会）
参加者 11人



主な意見等

参加者 医療事務の仕事をしていますが、12月から保険証がマイナンバー保険証に変わるということで、どうしたらいいか質問されることが多くなっています。他市町村の例ですが、保険証の手続きをしたいと市役所に電話したところ、やっていないからと切られてしまい困ったという相談を受けました。高齢者の方でインターネットができない方の中には、12月で保険証が使えなくなってしまうと思い込んでいる方も多く、不安になっていらっしゃるようです。ふじみ野市では市役所に問い合わせてもらおうということでもいいのでしょうか。

市長 インターネットでのお手続きが難しい方のために専門の窓口を設置していますので、市役所にご連絡いただくようご案内していただければと思います。

参加者 小学生の子どもの要望です。近くの公園で前はボール遊びができていたのに、できるエリアが限られてしまいました。近隣の市でボール遊びや散歩、バーベキューもできる公園があります。そういう場所が増えると楽しいのにとぜひ市長さんに伝えてほしいと言っていました。

市長 福岡中央公園もこれまでボール遊びは原則禁止だったところ、ボール遊び可能なエリアを設けたというのが実態で、決して狭くなった訳ではありません。かつては空き地が多かったことから、ボール遊びが黙認されていたところもあるかと思いますが、近年は、公園がベビーカーでの利用であったり、高齢者の憩いの場となっていたり、様々な使い方をされることもあり、ボール遊びは禁止されるようになってきています。学校も放課後の校庭利用は制限があります。子どもたちをのびのびと遊ばせる場所をつくっていききたいという思いから、一昨年「ふじみ野市こどもの未来を育む条例」をつくり、地域ぐるみで子どもたちを育ていこうということで、まず公園でのボール遊びを皮切りに、福岡中央公園でエリアを区切ってボール遊びができるようにしました。行政が決めるのではなく、地域ごとにこの時間帯は子ども優先にしようとかいったルールを決めていけばいいのではと考えています。

参加者 福岡中央公園の事例は、こどもを育む条例が発端になって、昨年地域と地元の小中学生でワークショップを行い、決めた取組であることをもっとアピールしてはいかがでしょうか。

市長 おっしゃるとおりで、伝えていきたいと思います。

参加者 人口が減らないようにという政策を展開されているかと思いますが、辛口の意見を言わせてもらえれば目新しさはないという印象です。都内に通勤される方が住む場所として選ばれる自治体であるということであれば、他にはないオリジナルな政策を打ち出して、そういった方にアピールしていく戦略が必要かと思います。

オハナプロジェクトや UR からの通路で昔は土であったところが舗装され、歩きやすくなりました。とはいえ、そこから流れる雨水がよく詰まります。排水路の掃除の頻度を上げていただけないでしょうか。

市長 排水溝に土や落ち葉がたまらないようにする対策としては、盛り上げた方がいいのかもしれませんが、バリアフリーの観点からすると、難しいので、課題を整理しながら改善を図っていききたいと思います。

市の政策に関してですが、介護給付費等社会保障の費用は右肩上がりになっていて、これについては、どこでも同様かと思いますが、ふじみ野市の特徴として、介護認定を受ける方が他市と比較し、若年化しているという傾向があり、理由を分析して課題を解決していこうとしています。東京からの通勤距離としては、このエリアは通勤しやすい位置にあります。面積は狭いため、自然はそれほど多いとはいえませんが、昨日、新河岸川の環境保全を行いながら、河岸祭りを実施している団体の総会に参加しました。河川敷に灯籠を設置して、夕刻、灯がともると、幻想的な風景が広がりますし、散策のための遊歩道も整備され、子どもたちのための体験学習も行われています。地域の方のお力添えがあって、東京から 30 分圏内の場所でそのような環境を作り出していることがふじみ野市の魅力だと私は考えています。地球温暖化対策として、燃やすごみの排出量も少ないことで上位をキープしています。これがふじみ野市というものをアピールしていければとは考えています。

参加者 私自身、自治組織の活動に携わっているのは、子どもたちのふるさとをつくっていこうという思いからで、子どもたちが大きくなり、その種をさらに育てていってくれればと考えています。しかしながら、市全体での自治組織の加入率は 4 割程度です。加入率の低下に対しては、地域も含めて対策をとっていく必要があると思いますし、生産年齢だけでなく、シニア世代にも魅力あるまちづくりをしていただきたいです。街の真ん中に銀杏並木があって、秋になると、沿道の方は、落ち葉で大変な思いをしているかと思いますが、自治会でもごみ袋の配布や竹ぼうきの貸し出しを始めました。先日、できれば青いうちに刈っていただきたいということで市に要望に伺ったのですが、2 週間以上返答がありません。職員の数が減って大変だということは理解していますし、予算にも限りがあるとは思いますが、だめならだめでもいいので、お返事をいただきたいです。また、県の管轄になると思うのですが、スクランブル交差点で県道から上福岡駅に曲がる場合、踏切の方から来て中央公園の方に曲がる場合で、右折信号をつけていただけないでしょうか。

市長 樹木の剪定の件については、早急にお返事を差し上げたいと思いま

す。スクランブル交差点の右折信号機は、変形の交差点ということもあり、中央公園側からは時間が短かったり、時間によっても長さが変わったりしています。少し先のドラッグストアの所の信号ともタイミングを合わせているそうです。要望事項としては、上げさせていただきたいと思います。

参加者 後期高齢者になる前の段階でぴんしゃん体操は、女性は社会的で行きやすいと思うのですが、男性は足が向きにくいのではないかと感じます。デイサービスもなかなか行かないことが多いです。麻雀やカラオケ等、介護状態になる前の男性が参加しやすい内容があるといいのではないのでしょうか。

市長 男性のぴんしゃん体操のグループをつくっていたり、男の料理教室をやっていたりするところもあります。ご指摘のとおり男性の特性でもあるのかなということで、積極的に参加しやすい環境をつくっていただければと思います。

※タウンミーティング後に出された意見

参加者 災害の際に、被災地ではトイレが少なかったり、使用に困っているという報道や話をよく聞きます。

ふじみ野市でも、災害時のトイレトレーラーを購入して、災害時には使用できるようにして欲しいです。

トイレトレーラーが出動待機している時でも、他市と協定を結び、他の地域で災害があったときなどは、トイレトレーラーを派遣・貸し出しできるようにしてはどうでしょうか。また、その逆で借りたりできるようにしてはどうでしょうか。

市長 能登半島地震におけるトイレの状況につきましては、派遣した職員からの報告や報道等により確認をしているところです。また、クラウドファンディングにより資金を調達する「災害派遣トイレネットワークプロジェクト」というものがあり、参画する自治体間で相互援助していることも把握しております。

一方、トイレトレーラーについては、重量があるため設置場所の選定が必要になること、また、けん引免許が必要になることが課題とし

てあります。

本市の災害時のトイレについてですが、県の想定で最も被害が大きくなる地震の場合、避難想定人数が2,846人と推計されていますが、各指定避難所等に、折り畳みトイレ、ラップ式トイレ283基を備蓄しており、避難者の10人に1台以上のトイレを備えております。その他にも、マンホールトイレや仮設トイレ設置に関する協定を締結しており、一定程度充足していると判断しています。

しかし、災害時のトイレについては非常に重要であると考えられることから、トイレトレーラーの有効性について研究しているところです。